

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

2017年4月から横浜国立大学から首都大学東京に所属変更

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):竹田陽子・首都大学東京経済経営学部・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

研究課題名:デザイン思考ワークショップによる経営者のアントレプレナーシップ教育

研究期間:2015年12月1日 ~ 2017年11月30日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究は、デザイン思考ワークショップの経営者教育への適用可能性を、ワークショップの実践をおこないつながりながら理論的に検証し、経営者のアントレプレナーシップ教育のためのプログラムを作成することを目的とした。デザイン思考のビジネスでの実践では特にアート(デザイン)、エンジニアリング、ビジネスという職能の多様性が強調されるため、企業人と、工学系、芸術系の大学院生の混成チームでデザイン思考のワークショップにおいて、映像記録、調査票調査、インタビューを実施した。また、比較のために、工学系学生のみでの多様性の低いチームで、同時期、共通テーマ、同じ手法でワークショップを実施した。一般に、デザイン思考において職能の多様性が重視されるのは、問題発見から要求される創造性の高いタスクでは、情報獲得、多技能統合の順機能プラスのメカニズムが必要とされる度合いが高いからであると考えられているが、本研究は、創造的タスクでは、単に新しい情報を集めることを超えて、あるメンバーが他のメンバーの異なる認識・思考・行動の様式に触れることによって、他者の視点を取得するという機能が働くことを見出した。チーム内で多様なメンバーと共感できることは、多様なユーザーとの共感可能性を高め、潜在ニーズの発見につながると考えられる。多様性チームでは、事後インタビューやアンケートで多様性がもたらす情報獲得、多技能統合、他者視点取得に関して多くの参加者が言及し、最終発表で賞を獲得した2チームでは多様性の順機能に関する言及が多い傾向があった。一方、多様性の低いチーム編成であったワークショップでは、自分と異なる他者の視点に関する言及は見られなかった。これらの質的な研究から得られた知見をもとにして、企業のビジネス企画、クリエイティブ、エンジニアリング職種に関する体系的なアンケート調査をおこない、また、経営者の創造性開発のために、あるひとつの事実が見る人によってさまざまに表現される体験を提供し、多元的な共感性を高めるプログラムを開発した。